

「脱使い捨て」でいこう！

出版にあたって ふりかえりとこれから

NPO法人 環境市民理事、水 Do! ネットワーク事務局長
瀬口 亮子

地球の使いすぎをやめよう

このたび、表題の本を出版しました。振り返ってみると、私の「脱使い捨て」に向けた活動の出発点は、国際環境 NGO FoE Japan の職員になって間もない2002年に、ごみ・環境ビジョン21と一緒に始めた「ごみ探偵団」でした。

当時、ファストフードやコーヒーショップのほとんどが、テイクアウトならともかく、お店の中で飲んだり食べたりするときも、使い捨てのカップ等の容器で提供していました。「たった5分でごみになるのに、貴重な資源の無駄使いだよ」という、素朴な思いから、一緒にお店を調査しよう、お店の人に聞いてみよう、という活動「ごみ探偵団」を開始、小学生も参加して、メディアにも取り上げられました。そして、全20社の本社に質問状を送り、ヒアリング、意見交換を行いました。

すると、その後、エクセルシオールカフェをはじめ、いくつかのチェーンが、店内ではリユース食器に切り替えてくれたのです。そして、私たちはその後、スターバックスコーヒー、ペットボトル等をターゲットに、さらに活動を続けてきました。

これらの活動のベースになっているのは「地球から取り出す資源量を最小化する」ことです。

水 Do! (スイドウ) キャンペーン開始にあたっては、ペットボトル飲料水(国産・輸入)を飲んでリサイクルした場合と水道水(冷水機・水筒)を飲んだ場合のライフサイクルの環境負荷をCO2排出量で比較したLCAデータを発表しました。

輸送や冷蔵販売でのエネルギー消費は大きく、リサイクルしても、その貢献はごくわずか。「その1本を消費するか、それとも水道水を選ぶか」で、地球の未来に大き

な影響を与えることができるのです。

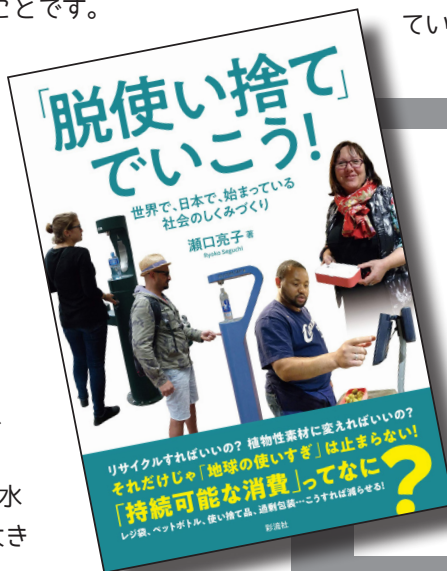
そして、もう一つ大事なのが「ポジティブな代替案の提示」です。意識の高い人は別として、多くの人々は、「こんなに大変だ、深刻だ」というネガティブな情報だけでは、気が重くなるだけです。特に、水 Do! キャンペーンでは、街中の水飲み場や給水機等、「オアシスのあるまちづくり」のすてきな事例をたくさん紹介してきました。単なる写真の紹介ではなく、その地域にどんな背景があり、どんな人たちが、どんなプロセスで取り組んできたのかを紹介することで、日本の地域から活動を始める参考になるようにしてきました。

脱プラスチック、そしてその先へ

2015年ごろから、国連持続可能な開発目標(SDGs)の採択、海ごみ問題の深刻化等から、世界が「脱使い捨てプラスチック」に向けて動き出しました。日本でも、環境省がようやく、レジ袋の有料化の法制化の方針を示す等、新たなしくみづくりの兆しが見えてきました。しかし、そのペースは遅く、いまだにレジ袋以外のターゲットは明示れていません。メディアはストロー等の微細な変化を報じながら、ペットボトルやコンビニコーヒーのカップ等を本気で減らす必要性はほとんど言及していません。

今こそ、そもそもどうして、「使い捨て」をやめなければならないのか、そして、これまでに各地でどんな取り組みが行われ、どこに向かうべきなのか、見つめ直すときです。そうすることで、本当に必要な社会のしくみづくりの方法が見えてくるはずですよ。

このほど出版した拙著を手にとっていたいただければ幸いです。



「脱使い捨て」 でいこう！

世界で、日本で、
始まっている
社会のしくみづくり

瀬口亮子 著
2019年2月
彩流社 1,800円+税
*お近くの書店やネット
注文で入手できます。